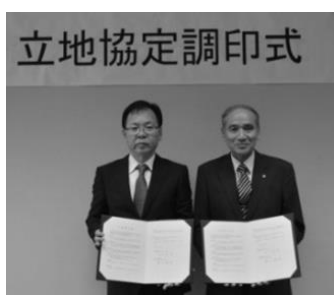


工業団地への企業の進出

市では雇用創出を目的として、工業団地を造成し、企業誘致に取り組んでいます。最近の企業進出のうごきについて、お知らせします。

三春工業団地について、医療・介護給食等の製造を行う森永食研株式会社（大分市）の進出が決まりました。



▲ 8月8日、市役所での立地協定調印式（森永隆美代表取締役（左）と高木市長）

また、富永工業団地について、平成21年に進出された建設機械の総合メーカー平戸金属工業株式会社（福岡市）の主力工場として、吉井工場が開所されました。



▲ 7月28日、吉井町の富永工業団地の吉井工場が開所式が行われました。

☆☆☆シリーズ「うきはブランド推進隊の活動紹介」☆☆☆ 地域外の人材を招致して地域力を高める「地域おこし協力隊」の制度。「うきはブランド推進隊」として、現在9人がミッションに取り組んでいます。

インバウンド推進プランナー 矢倉 紗弥佳

うきはに来てから早5ヶ月。インバウンド推進プランナーとして、海外に向けてうきは市の情報発信に取り組んでいます。7月には台湾からパワーブロガーさんを3名お招きして、1泊2日で市内を案内してまわりました。つづら棚田や浮羽稲荷の絶景スポットでは、美しい景色をカメラに収めようと夢中でシャッターを切るブロガーさん。その他、白壁吉井町や調音の滝の流しそうめん、うきは自慢のフルーツ狩りなどを心から楽しまれている様子を見て、うきは市の魅力は台湾の方にも十分伝わるという手応えを得ることができました。

台湾では、多くの方がブログを見て観光に来られます。今回の旅の内容も素敵な写真と一緒に発信していただけたとのこと。台湾の方々にうきはの魅力が伝わり、うきはを訪れるきっかけにしていきたいです。

一方で、外国語表記の看板やマップの不足など課題も見られました。これを踏まえ、現在は観光に関わる事業者様に向けたアンケートを行っています。市のインバウンドの現状と課題を洗い出すことを目的としています。できるところから一歩ずつ改善につなげていきたいです。



うきは駅活用プランナー 石川 亮

着任してから3年目になりました。「うきは地域総合商社」の観光DMOの活動についてお伝えします。

☆サイクルツーリズム検討会（男のチャリ部）



自転車に乗って新しいうきはの楽しみ方を探しました。車とは違う風景が見えるので新しい発見がありました。今後、サイクルマップなど作成して楽しみ方の提案をしていきます。

☆復興支援出張販売会（中村学園オーブンキャンパス）



福岡市などイベントでの出張販売会を行っています。特産品の販売だけでなく復興の現状をお伝えして、うきは・朝倉などに観光に来てもらえるようPR活動をしました。

うきは市観光協会事務局長 藤田 豪太郎

今回は、7月5日の九州北部豪雨災害に対する観光協会としての活動をご紹介します。

1つ目は、被災地への支援活動です。災害の直後から協会会員のフルーツ農園と協力して朝倉市や東峰村の避難所へ「ぶどう」をお届けしました。

また市内2か所の観光案内所に義援金箱を置き、皆さまからのお志をお預かりしております。

2つ目は、うきはからの応援・支援活動です。ムラおこしセンターだった建物が大学生ボランティアの活動拠点として、情報交換や宿泊の場となっています。観光協会からはレンタサイクル5台を無償でお貸ししているほか、市内の食事や買物場所などの情報提供を行っています。また学生の振り返りミーティングへの参加など、さらに支援できることを検討しています。

3つ目は、うきは市内の復興活動です。8月2日の「フルーツ王国開国式」では7組の「親善大使」を任命し、福岡市内など市外で「うきはの元気」を伝えていただいています。さらに福岡市役所横の「九州広場」でも観光イベントを開催、東京新橋にオープンしたアンテナショップ「福岡久留米館」でも2日間にわたって『うきはフェア』を実施しました。今後は、この「復興活動」をさらに進めるとともに、朝倉市や東峰村からうきは市内で「みなし仮設」として生活されている被災者への支援なども行いたいと考えています。